〈第５学年分科会　提案発表〉

言葉による見方・考え方を働かせ，自らの考えを形成し発信する国語科指導
―　「知らせよう　ぼくたちの上浦小学校」の実践を通して　―

吉野川市上浦小学校教諭　富山美智代

１　はじめに

本校は，吉野川流域の交通の便のよい農村地帯に位置しているが，急激な児童数の減少で，現在，全校児童５名の小規模校である。農業体験や地域の方と共に取り組む行事も数多く受け継がれており，学校への地域の方の協力，期待は大きい。

児童は，周りの好意的な環境のなかで，伸び伸びと素直に育っており，学習にもよく取り組む。しかし，少人数で関係が密接であるため，日常生活でも，授業のなかでも，言わなくてもわかってもらえると思っているようなところがあり，言葉によって自分を表現するという機会は少ない。

そこで，言葉による見方・考え方を働かせ，考えを形成させ，よりお互いを理解し合える力をつけさせようと「知らせよう　ぼくたちの上浦小学校」の授業に取り組むことにした。この単元では，総合的な学習の時間とも関連させ，自分たちの母校である上浦小学校をもう一度自分の視点から見直し，自分の言葉で「上浦小学校のよさ」を表現し，級友と文章を練り上げ，地域の方に向けて発信することを目指している。

児童が言葉のもつよさ，奥深さを感じ，言葉によって自分を表現し，表現したことを受け止めてもらえたときの達成感を味わい，さらに学ぶ意欲をもつことができるように指導したいと考える。

２　研究の方向

（１）小規模校の特徴を生かした国語科学習指導
（２）「考えを形成する」過程における指導の工夫
（３）「共有する」過程における指導の工夫

３　研究の実際

（１）小規模校の特徴を生かした国語科学習指導
　〇国語科を核にした教科横断的な単元
　・総合的な学習の時間の体験，振り返り，探求し続けたくなる問いをつくること
　・対話による学習形態の工夫（６年生児童との学習，地域への発信）
　〇個に応じた指導
　・「学びの手引き」の活用
（２）「考えを形成する」過程における指導の工夫
　〇学習の記録の効果的な活用
　・１時間ごとの振り返り，自分の学びの実感。
　・書く活動の充実と，学習の成果物の蓄積。
　〇学習環境の工夫
　・多様な，学ぶ「場」の設定
（３）「共有する」過程における指導の工夫
　〇対話的な活動の充実

４　おわりに

「知らせよう　ぼくたちの上浦小学校」の実践では，児童は上浦小学校の良さを地域の方に発信しようと，言葉を選び，文章の構成を考え，より分かりやすく伝えられるようにと学ぶ姿が見られた。学習発表会で児童が発信した上浦小学校への思いは，地域の方々にも届き，地域の方々の声は，さらに，児童の学ぶ力になった。児童はこの単元の学習を通して，自分の考えの深まりを実感し，自分の選んだ言葉が周りの人たちに届く体験をし，周りの人々の支えも感じ，成長していったのではないかと思う。

今後もさらに，教育課程や学習環境を見直し，児童が学びを深めることのできる国語科学習指導を目指して実践を重ねたい。